

子どもの日本語教育研究会 第2回ワークショップ 2017年8月19日

子どもの日本語教育研究会
ライフコースを見据えたキャリア教育

エンパワメントの視点から ～浜松の事例～



公益財団法人 浜松国際交流協会 (HICE・ハイス)

多文化社会コーディネーター 松岡真理恵



今日、お話しすること

HICEでの若者関連事業を紹介。

企画者はどのような思いで行ったのか。

参加した若者にとってどのような効果があったのか。

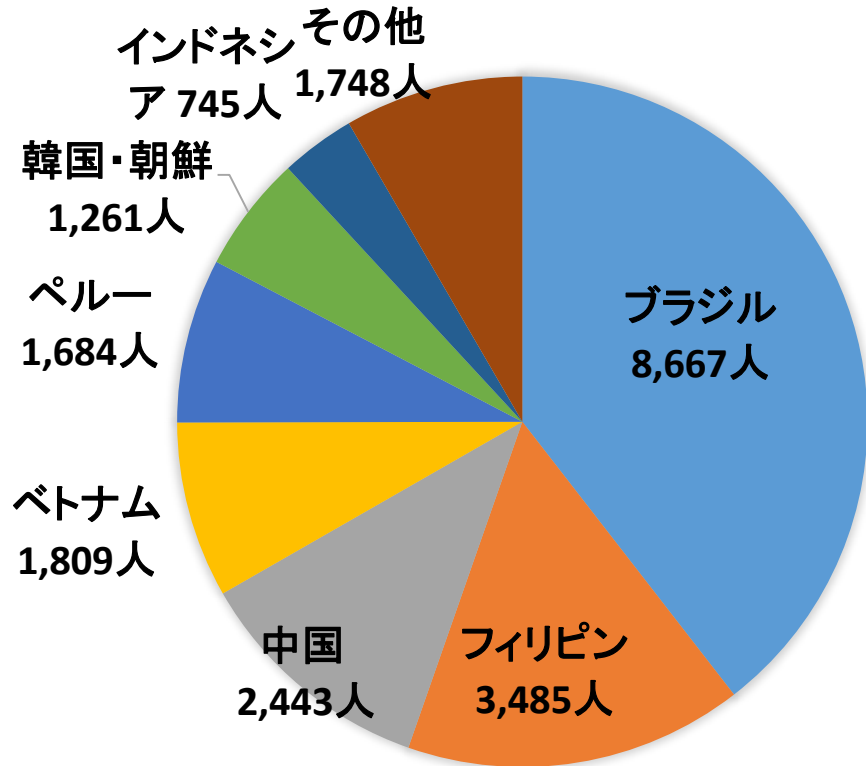
広い意味でのキャリア教育とはどういうものなのか。

浜松市の現状

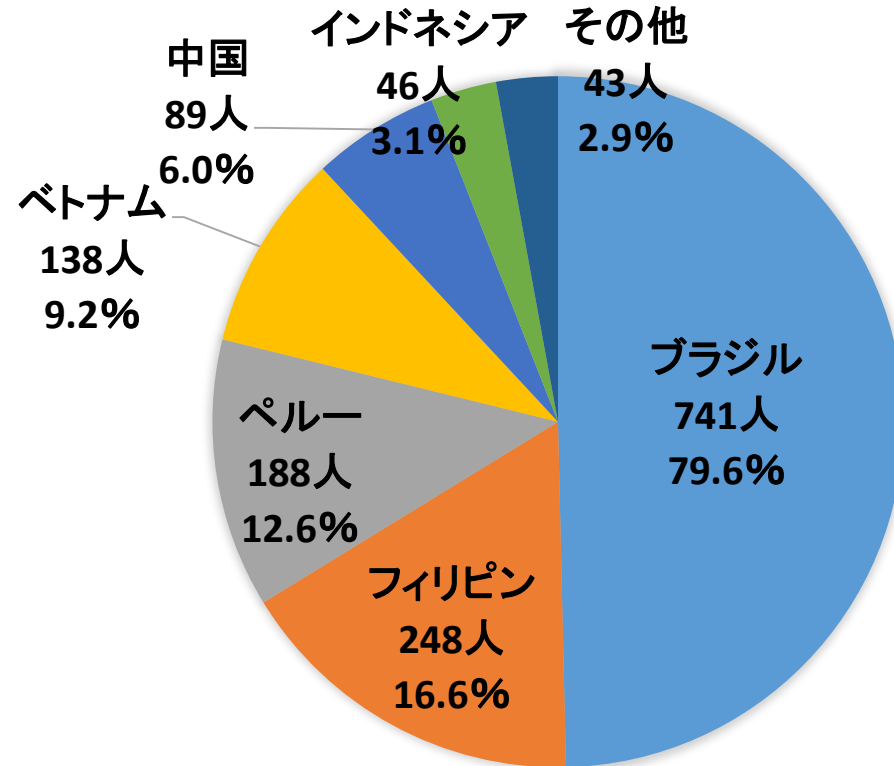


浜松市はブラジル人が多いが、ピーク時の40%くらいに減少、フィリピンが増加。
その他、多国籍化している。

在住外国人数(浜松市・国籍別)2017年4月

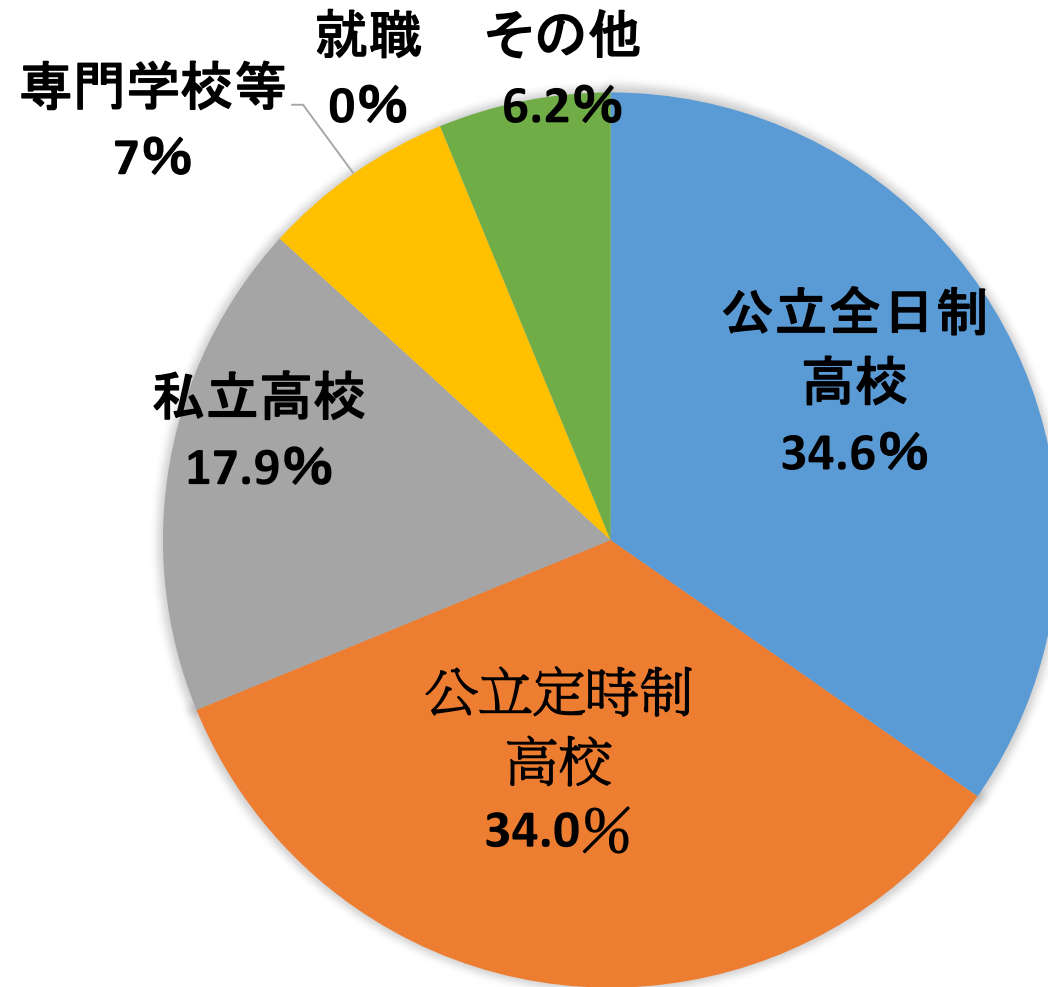


外国籍児童生徒数(浜松市・国籍別)2017年4月



高校進学

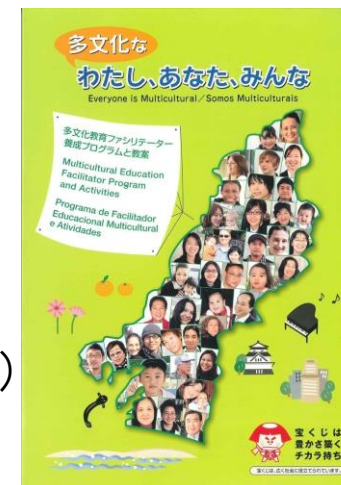
高校進学率と内訳(H28年度)
平成22年度から80%を
上回るようになってきた。
(平成28年度は86.4%)



外国にルーツを持つ若者のエンパワメント



- 多文化教育ファシリテーター養成講座(2009年)
Step1) 自分の体験を受容し、 Step2) 社会へ向けて発信する
教材「多文化な わたし、あなた、みんな」作成
→この成果を生かして、学校・公民館への出前講座
- 可能性へ向けての「RESTART」(2011年)
同じ境遇の後輩へ向けてのメッセージ
- イベント「78ヶ国の浜松市民が大集合!？」の企画・運営(2012年)
新しい社会をともにつくろう! という呼びかけに発展
- COLORS発足(2013年)
イベントではなく、日常的な活動を!
→グループ「COLORS」結成



外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」



- 月一回のおしゃべり会

自分たちはどうやって日本語を学んできたか
国際結婚について話そう！
就職について話そう！ などなど

- 外国にルーツを持つ若者のための就職応援セミナー

すでに働いている先輩からの体験談
企業説明
座談会

- 出張COLORS

定時制高校へ出前授業

先輩から後輩へのメッセージ

就職試験、日本語能力検定試験、国籍取得の体験談、自己アピールの方法



★ポイント★ 若者コーディネーターによる支援

若者のための日本語教室

■背景

- ・呼び寄せなどによる10代後半の外国にルーツをもつ若者の増加(特にフィリピンルーツ)
- ・外国人学校卒業後の進路未定者(ブラジル・ペルー)
- ・日本語力不足により高校進学や就労が困難



居場所がない
将来の目標がない

■概要

義務教育年齢超過しており日本語力が低い外国にルーツを持つ若者(16歳～19歳)を対象に、初歩の日本語教室を開催し、日本語能力の向上と参加者同士の交流による仲間作りを目指す。進学・就労などその後の進路についても考える機会を提供する。

■取り組み

2014年、2015年は試行

2016年5月～7月 毎日3時間 →7月～12月 週2回 読み書き・日本語能力試験

参加者:16人(フィリピン10人、ペルー2人、ベトナム2人、ブラジル1人、中国1人)

若者のためのキャリア支援事業(2016年度～)



■目的

小中学校から高校、進学、卒業後の就職までをトータルのキャリア支援という観点から捉えなおし、外国にルーツを持つ若者が社会で活躍するために必要な支援について、関係機関との連携を構築しながら検討する。

■取り組み

1 学齢期を過ぎた若者の実態調査(アンケート)

7月～9月 約100名対象 公立高校(定時制、単位制)、外国人学校、
就業者

2 高校在籍者へのキャリア支援研修

定時制高校での先輩ロールモデルによる出前授業
就職応援セミナー 等

3 関係機関によるネットワーク会議

高校、外国人学校、ハローワーク、NPO など



外国にルーツを持つ高校生への キャリア支援研修

1) 定時制高校での出前授業

概要: 外国にルーツを持つ若者グループCOLORS(カラーズ)のメンバー約8人が定時制高校に出向き、各3、4回ずつ、将来を考える機会を提供するための授業を行う。

対象: 浜名高校(主にフィリピンルーツ)
磐田南高校(主にブラジルルーツ) 新居高校

内容: ワークショップ形式で自己紹介ゲームなどから始め、ライフストーリーを話したり、就職する際に優先する価値観について考えたりする。

成果: 進学・就職について前向きな関心を示す高校生も出てきた。

課題: 高校側からのニーズへ全て対応できない。(実施校数、開催回数)
継続的に実施可能な体制づくり。



2) 外国にルーツを持つ高校生のための就職応援セミナー



日程: 2016年10月、2017年6月

会場: 静岡県立浜松大平台高等学校

目的: 外国にルーツがあることを生かして就職している先輩の事例を聞いたり、企業の話聞くことで、高校生が自分なりの目標をつくるための契機とする。

内容: 先輩からの話(ブラジルルーツで携帯電話ショップ勤務など)
企業紹介(運送業、建設業、携帯電話サービス)4社→6社

参加者: 高校生20名程度

成果: 今後の企業と学校との連携につながった。

課題: 授業の一環として行えず、参加生徒数が伸びない

→ 来年度以降は、イベントとして行うのではなく、授業として一連のキャリア支援教育の一つの位置づけで年4回程度の継続性のあるプログラムとして行う方向



若者のキャリア支援に取り組む際の視点



1. 日本語力・学力の向上への支援

2. 動機づけのきっかけを提供

- ・ロールモデルと出会う
- ・視野を広げる

=エンパワメント

3. 親の理解・経済状況など環境への働きかけ

エンパワメントとは？キャリア支援とは？



- 「進学や就職の支援」というのは表明に表れている部分。
- その根っこにあるものは、
 - 「自分なりの人生を見つける」
 - 「社会の中での自分の位置を見つける」
- それを支えるのは「自己肯定感」
 - 「多文化な わたし、あなた、みんな」



私の中での彼らとの出会い

「そうやって、分かる、分かるって言い続けているんですよ」

→他人のことは本当には分からない

ある若者の言葉

「外国にルーツを持つ自分の生きにくさを分かってもらおうとしても限界がある。でも、日本人であれ誰であれ、みんなそれぞれの課題や生きにくさを抱えている。それを変えようと各自が各々の土俵でもがくことで、いつかどこかでそれがつながるのかもしれない。」

→「自分の課題」に取り組む こだわる